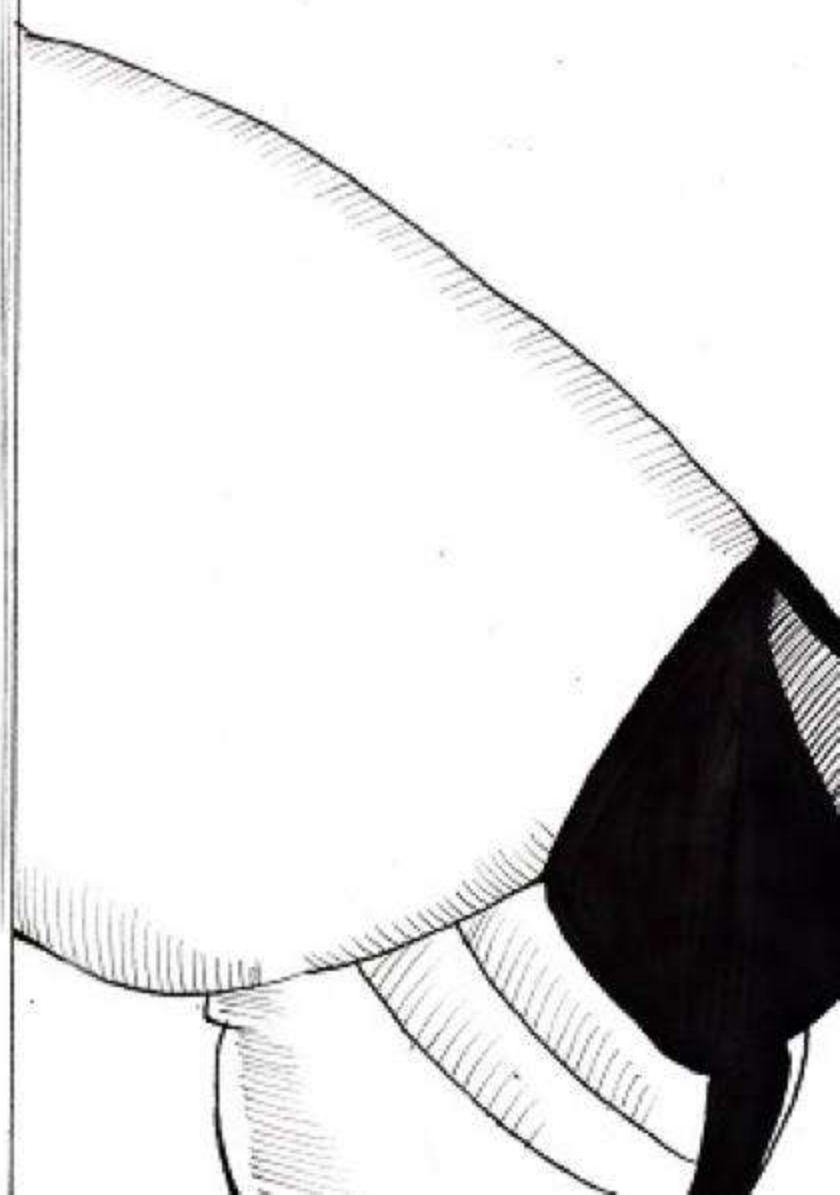
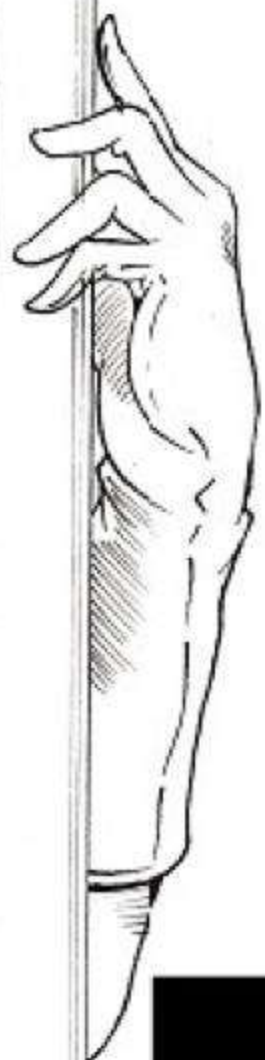


十六夜デユエル

にんにん堂



とある小さなカードショップにて
店内に1つだけある対戦テーブルで
決闘をしている2人の前に現れた
ライダースーツ姿の十六夜アキ

アキは2人にある提案をしてきた
それを聞いて驚いた2人だったが
拒否する理由はなく……
アキの提案を受け入れた



「さあ、決闘を始めるわよ
今回特別ルールとして
2人の決闘に私もこんな
感じで参加するわ♥」

「2人はいつも通り決闘して
くれればいいから♥
私は2人の応援サポーター
ってことかしら?」



「それじゃあデツキを
カット&シヤツフルよ
そう、念入りに…♥」

「その間私は「うちの
準備をしておくから♥」

「2人共、いいモノ持ってるのね♥
決闘ばかりでこんなに立派なのに
全然使ってないんでしょ?」
2人とも女っ気ないもの♥」

「…準備出来たみたいね
お互いの健闘を祈るわ♥」

コスコス
コスコス

30 60 90

コスコス

コスコス

30 60 90

「あら、開始早々厳しい手札ね
このドローで良いカードを
引かないとね・・・♥」

「ほら良いカードが引ける様
おまじないしてあげる♥」



んっ

すっすっ

ひびく

ひびく

ひびく

「私の股に手を通して…
デッキから引いたカードを
おま●こに擦りつけるの♡
良いカードであります様に…
って祈りながら擦るのよ♡」

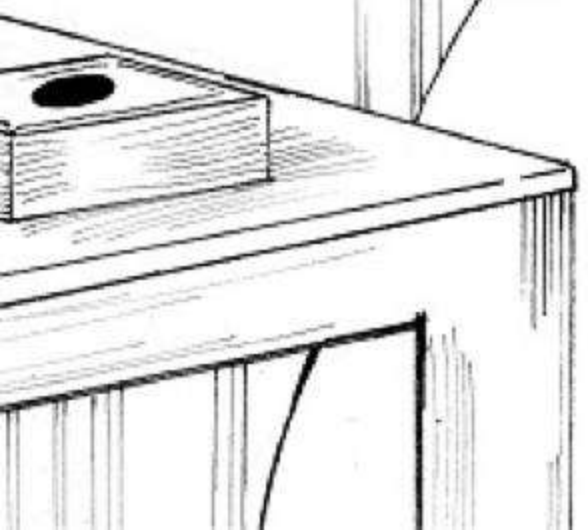
「決心がついたら一気に
カードを引くのよ♡
私にカッコいいドロー
見せて頂戴ね…♡」

んっ

すっすっ

んっ
んっ

んっ



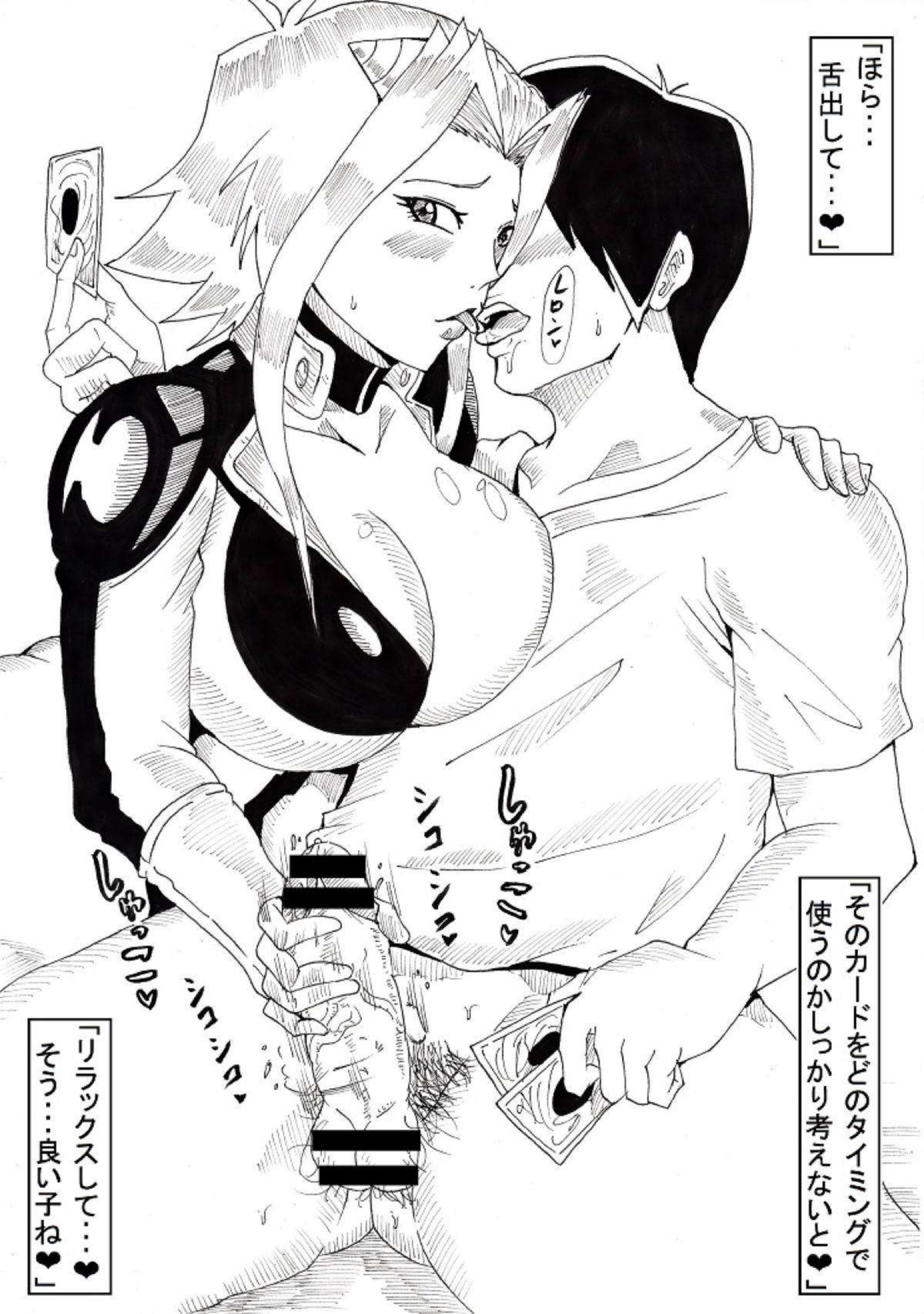
「へえ…扱いが難しいカードね♥
という事はハマれば強いデッキね
…イヤラシイ戦術だわ♥
貴方のココと一緒に…♥」



「おつきくて握るのが大変♥
扱いが難しくとつても
イヤラシイち●ぽね…♥」

「やだ…♥
また大きく
なったわ♥」

「ほら…
舌出して…♡」



「そのカードをどのタイミングで
使うのかしっかり考えないと♡」

「リラックスして…
そう…良い子ね♡」

決闘は中盤に
差し掛かっていた
両者一步も譲らない
攻防を繰り広げる中
アキはフェラチオを
していた

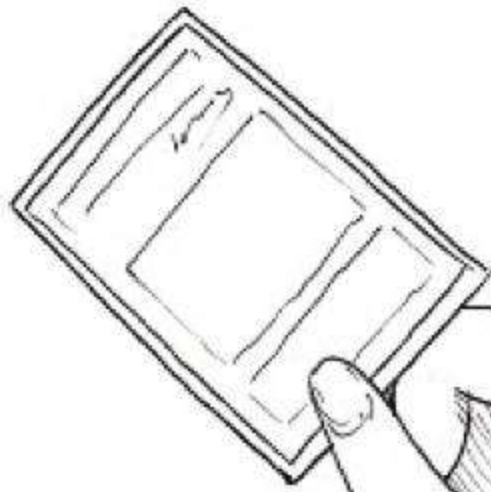


(やだもう…♥
2人共、ほんとに
ち●ぽおっきい…♥
交互に啜えてるけど
顎が疲れちゃうわ♥)



(それにしても2人共
良い決闘してるわ：
私もしつかり応援
しないとね：：：♥)

(2人共頑張ってるんですもの♥
私だって頑張るんだから：：：♥)



んむっ



んむっ

んむっ!

んむっ!

んむっ

んむっ!

んむっ

「モンスター効果発動ね
ほら、ちゃんとカードに
書かれているテキストを
読まないダメよ: : : ♡」

「このおまのじゃ
読み上げよう？」

んん

んん

おまのじゃ

んん

んん

おまのじゃ

んん

「いいから、続けなさい♥
顔におま●こグリグリ
押し付けられたままで
読み上げるのよ……♥」

「その魔法カードの効果は
互いに2ターンの間攻撃が
できない……
もどかしいわね……♡」



「今は我慢の時……♡
仕方ないわよね……
だって、攻撃できない
んだから……♡」

「ほんと……もどかしいわ
でも、「この間にしっかりと
次の手を考えて……
準備をするの……♥」



「わ、私もしっかりと準備
しておかないと……
……そっでしょっ。」

「お互いに上級モンスターを
攻撃表示で召喚……
攻撃力もほぼ互角……
一歩も譲らない決闘ね♥」

あんっ

「2人共……準備万端よ♥
私のターンは終了……
ここからは貴方達の
攻撃ターンよ……♥」



ちゅーっ

はーっ

すーっ

はふっ

ちゅーっ

「そんなに匂いばかり嗅いで…
石鹸と汗が混じった匂いが
そんなに好きなの？
それで貴方のち●ぽが
ギンギンに反り返るなら
存分に嗅いで頂戴…♥」

あんっ

「じっちは凄い勢いでおっぴょこ
吸っちゃって…♥
もう、乱暴なんだから♥
そうよね、初めてだから
加減が分からないわね…♥」



ち●ぽ

はーっ

すーっ

はっ

ち●ぽ

そして決闘は
終盤へ…
両者激しい攻撃を
繰り広げていた

あー

あー

ふんふん

ふんふん

んはー
んっ

「バトルフェイズ…攻撃は成功♥
相手の守備表示モンスターを
破壊…その攻撃モンスターは
貫通能力を秘めているわ…♥」

「攻撃したモンスターの攻撃力が
破壊した守備表示モンスターの
守備力を越えていれば…
その数値分…相手のライフに
ダメージを与える事が出来る♥」

「…やるじゃない
凄い貫通力だわ…♥」





「相手に壁となる
モンスターはいない…
もう一体のモンスターで
直接攻撃ね…♥」

「これ良い…♥
バックで突かれるの好き♥
子宮に直接来る…
ち●ぽがダイレクトアタック
してくるっ…♥」

「…その攻撃モンスターの
効果は追加攻撃っ…♥
まだ攻撃が続くのね…
良いわ♥貴方のバトルフェイズ
まだ終わらないのねっ…♥」

「そんなっ…なんて
攻撃力なのっ…
この局面でこんな
強力な攻撃モンス
ターを召喚…
しかも装備カード
で更に攻撃力を
上げるなんて…
♥」

おきん



「…っちも良いっ♥
どちらのち●ほも凄すきい…
奥にズンズン来るっ♥
超強力な攻撃…おま●っ!
ズッコンバッコン来るっ…
♥」

「おま●こ突きながら
子宮の中でち●ぽ
膨らんでるう♡
ち●ぽの攻撃力
アツプしておま●こ」
「♡
KOされちやうつっ♡」



「もうダメエツ…♡イクイクッ
私のライフガンガン削られて
0になっちやうつっ♡
公平な立場なのに…
イカされちやうつ♡
イク…♡「のち●ぽで…
おま●こイクウウウ…♡」

「お疲れ様：：♥
2人共、良い決闘だったわ♥
エッチも初めてとは思えない
くらい良かったわよ♥
応援する側の私がいかさ
れちゃうなんてね：：♥」

はあ：：

はあ：：

「ほんと、良い決闘
だったわね：：♥」



カニル

おさ

カニル

ニ

ニ

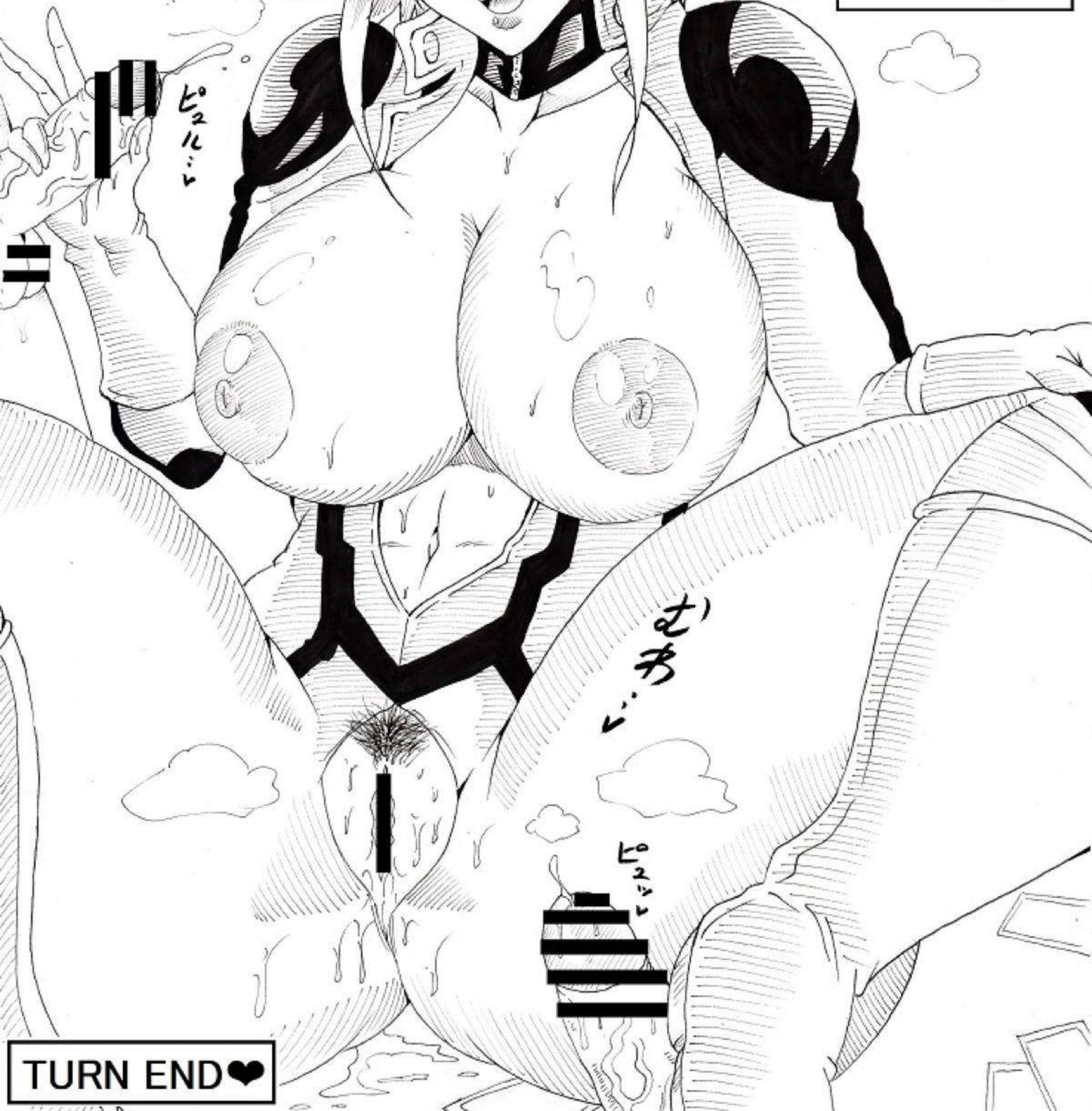
ニ

「それにしても2人共
まだまだ元気みたいね…
きつともう一回やったら
更に素晴らしい決闘に
なると思うのよね…♡」

はあ…

はあ…

「…私、まだ時間あるけど
2人はどうかしら？
良かったら、もう一回
決闘…する？」



TURN END ♡

今日私は性に興味津々の
龍亞を誘ってラブホテルに
やってきました

ホテルに来て早々
私のお尻を触ってくる
龍亞と記念撮影♥
勿論、この事は
遊星達には内緒です♥



「ほら、龍亞笑って♥」

「う、うん…
ドキドキする」

「あらそうなの？」

その割には私のお尻を
触り続けてるじゃない♥」

「そ、それは…だって俺今まで
ずっとアキ姉ちゃんのお尻を
触りたかったから…
凄くドキドキするけど
やめられないんだ…」

「うふふ♥これからもっと
凄い事しちゃうから…
楽しみにしているのよ♥」





「龍亞…どうっ？
私のおま●この味は？」

「最高だよ、アキ姉ちゃん！
初めはおしっこの匂いが
少ししたけど、今は中から
出てくる汁の匂いと味で
いっぱいだ……！」

むんずんずん



「龍亞が
舐めるから…
まん汁溢れて
きちやうわ♥」

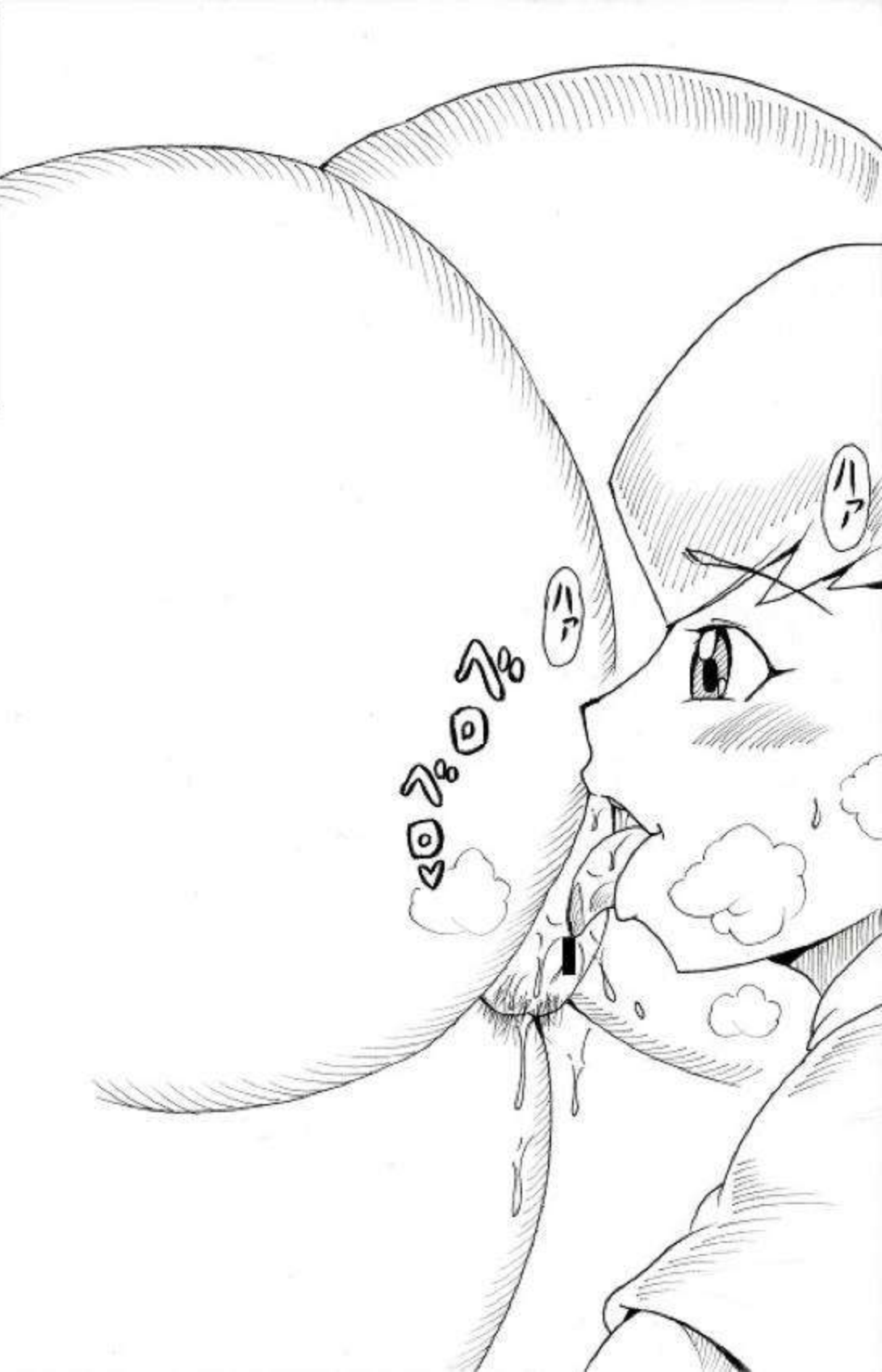
「まん汁…
アキ姉ちゃんの
まん汁…
美味しい……！」



「やだもう……♡
舐め方が激しく
なつて……龍亞の
鼻息がお尻の穴と
おま●こに当たつて
くすぐりたい……♡」

「我慢してアキ姉ちゃん……
始めによーくおま●こ
濡らしておくんでしょ？
なら、もう少しの間
辛抱しないとね……♪」

「それならもつと
奥の方も舐めて
頂戴……♡」



「……ら♡
ダメよ
撮っちゃ♡」

「えー
いいでしょ？
もう始めに二人で
写真撮ったじゃん」

「それは
そうだけど……♡」



「ねえアキ姉ちゃん
折角撮ってるんだから
何かポーズしてよ♪」



「もう……
しょうがないわね♡」

「龍亞のおち●ぽ
しゃぶってる写真
なんか撮って…
いやらしい事に
使う気でしょ？」

「勿論、使うに
決まってるよ！
毎日この写真を
見ながらオナニー
するんだっ！」



「毎日するの？
オナニー？」
「するよー！」

「私が龍亞のおち●ぽ
しゃぶってる写真を
見て？」
「シロシロする！」



「そっかー…
それならいいわ♥」

「流石アキ姉ちゃん♪」



「アキ姉ちゃん！
これっ凄いよ！」

「どうかしら？
私のライディング
テクの味は♥」

ライディングデュエルに
憧れている龍亞の為に
今日は特別にオトナの
ライディングテクニック
を披露してあげました♥



あはっ♥

んっ

あっ

バチンッ

グッ

あはっ！

うぐっ！

グッ

バチンッ

バチンッ

「それにしても良い乗り心地ね♥
龍亞、貴方とても良いわ♥
反応も良くてほんと乗り甲斐が
あるわ♥私のテクのいつもより
強烈になっちゃうわっ…♥」

「ち、ち●「折れるっ！
折れちゃうよお…！」

「龍亞ったら、そんな声出しちゃって
…子宮に響いちゃうわ♥
もっとよ♥その声もっと聞かせて♥
おま●「もっと感じて…♥」



「あぁっ出るー！出ちゃうよ
アキ姉ちゃん……！」

「いいわよ、中に出して♡」

「出る……出てるよー！
アキ姉ちゃんのま●こに
俺の精子ビュルビュル
流し込んでやってるっ！」

「龍亞の来てる……♡
大量の年下ザーメン
流し込まれてるわ……♡」



「気持ち良い……！
アキ姉ちゃん
気持ち良いよお！」

「私もよ龍亞……♡
帰りまでまだ時間は
たっぷりあるわ……
だから、2人でもっと
楽しませよう……♡」

「うん……！
それじゃあ今度は
俺のターンだ！」

「うふふ……♡
期待しているわ……♡」



「アキ姉ちゃん！
今度は俺が…
俺がやるんだ！」

「そうね…
今は貴方の
ターンよ
龍亞…♥」

「やるじゃない♥
龍亞のライディング
もなかなか様
になってるわよ…♥」

「まだまだ…
こんなもんじゃないよ！
もっとテクを磨いて
アキ姉ちゃんを俺の
ものにするんだっ！」

「あら、突然告白
されちゃった♥
だけど、龍亞
私は…」

「分かってるよ！
遊星の事が好き
なんでしょ？
それでも俺は
諦めないっ！」

「龍亞の
そういう
真直ぐな
ところ…」

「嫌いじゃ
ないわよ♥」

「あん…」

「そうね、私は遊星が好き…
それでも龍亞が諦めないの
なら私を振り向かせる為に
頑張ればいいわ…♥」

「私から誘ったんですもの
その責任としてこれから
貴方が私を口説く為に
身体も求めるなら
私は引き受けるわ…♥」

「せいせいテクを
磨いて…
私を口説き
落として
見せなさい♥」

「俺…やるよ
これからも
アキ姉ちゃんと
いつぱいエッチ
する…!」

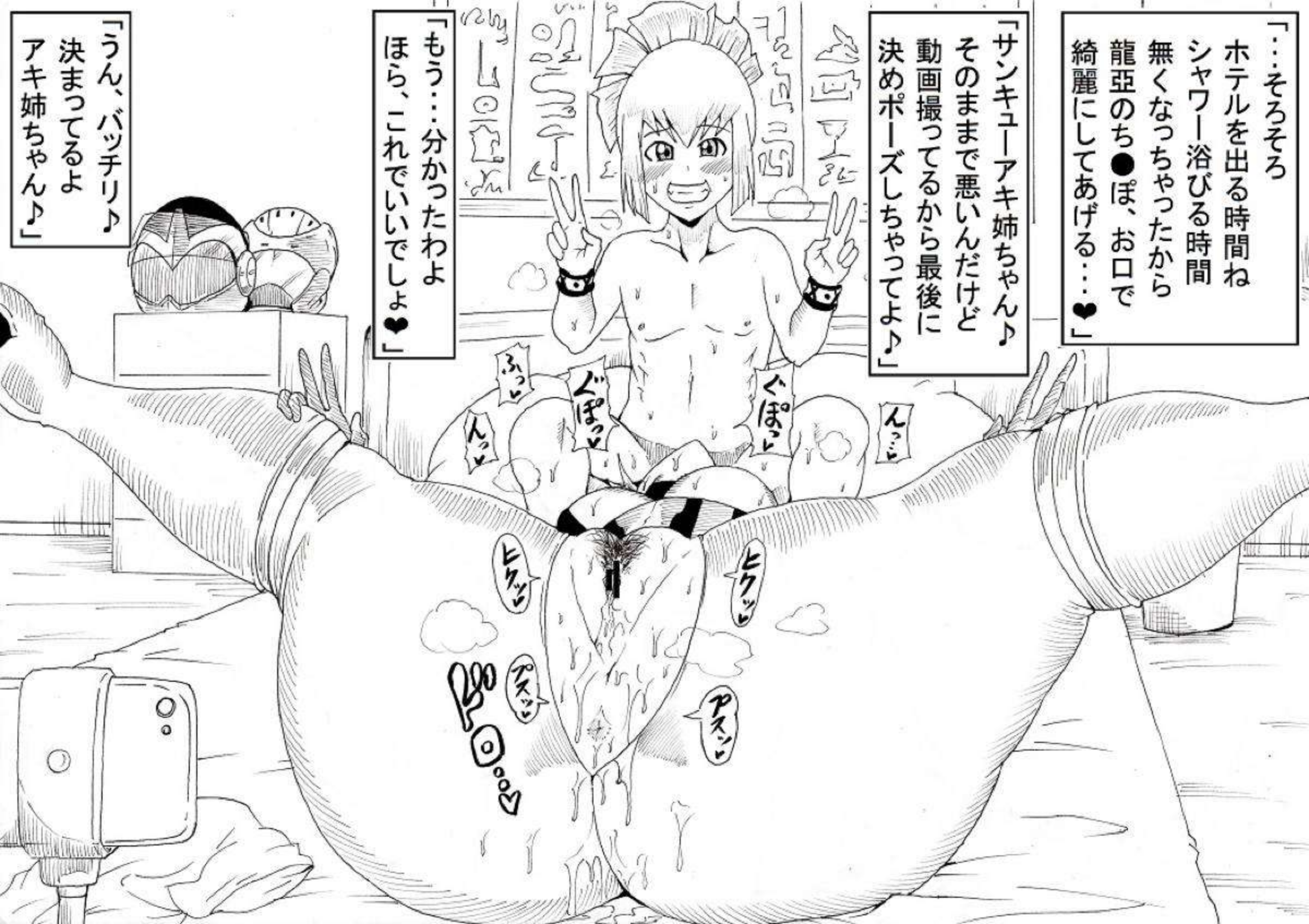
「それでいつか
俺の事好きに
なってもらおう!」

「…そろそろ
ホテルを出る時間ね
シャワー浴びる時間
無くなっちゃったから
龍亞のち●ぽ、お口で
綺麗にしてあげる…♥」

「サンキューアキ姉ちゃん♪
そのままで悪いんだけど
動画撮ってるから最後に
決めポーズしちやってよ♪」

「もう…分かったわよ
ほら、これでもいいでしょ♥」

「うん、バッチリ♪
決まってるよ
アキ姉ちゃん♪」



「今日はアキ姉ちゃんとの
初エッチ…それと盛大に
フラれちゃった記念…
だからね♪
大事に残しておかないと♪」

「初エッチはともかく…
フラれちゃった記念で♥」

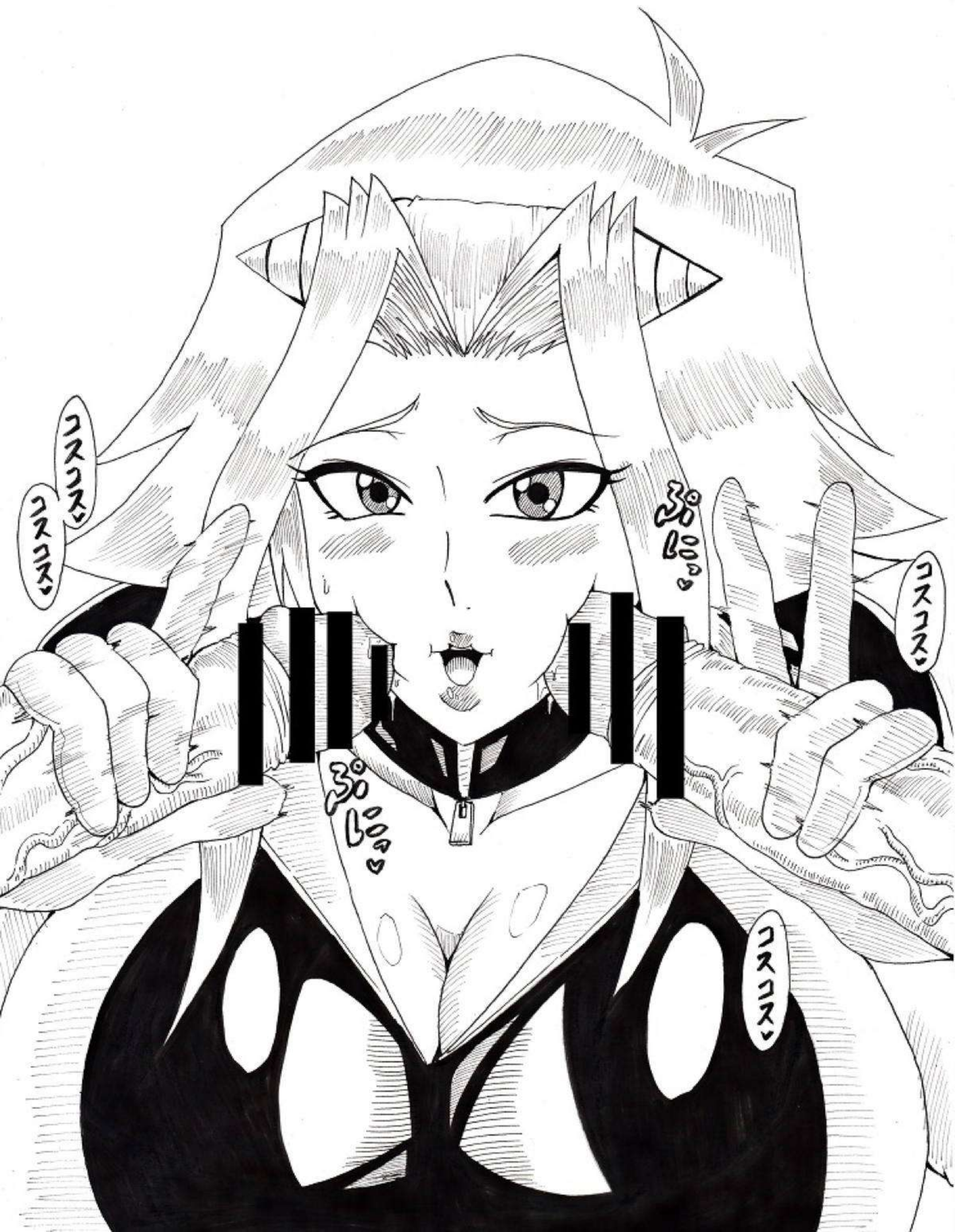
「だって、俺はいずれ
アキ姉ちゃんの事
振り向かせて見せる
からさ…
その時に今日の動画を
2人で一緒に見るんだ♪」

「もう…これだから
夢見る少●は♥
でも、そうね…
うふふ…楽しみに
しているわ…♥」



TURN END♥





コソコソ
コソコソ

ゴゴゴ

コソコソ

ゴゴゴ

コソコソ











あーっ

アッ

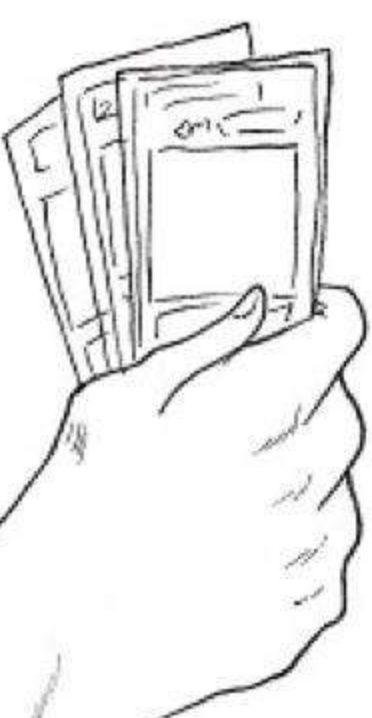
おっ

おっ

アッ

アッ

アッ





あーん

うわーん

はーん

すーん

あーん

うわーん

あーん



んはっ

んっ

あっ

あっ

んっ

んっ



おっかん

おっかん

おっかん

おっかん

おっかん

おっかん

おっかん

おっかん

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]











あは

あ

あ

ブチュン

おっ!

おっ!

おっ!

ブチュン

ブチュン

おっ!





